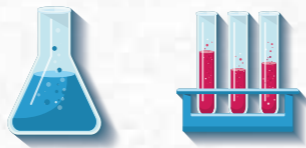


CASE STUDY 事例紹介



プログラム助成

日野町立西大路小学校 (滋賀県)

日野川エコスクール

～綿向山から琵琶湖までの環境学習プログラム～

琵琶湖に注ぐ日野川は中流から下流にかけて天井川となる一級河川である。この川の構造や水と人々の暮らし、生物、水質などについて、日野川流域の12の学校と、市民団体等7組織が連携して、体験を重視した環境学習「日野川エコスクール」を実施した。環境調査は3つの視点「鳥の目・虫の目・魚の目」を想像して観察し、水質については化学的な指標も用いておこなった。学校での授業と「エコスクール」を通して学校間の交流や情報共有が深まり、子どもたちの環境創造力を養うことができた。



意欲的な小学校の先生方を支援するプログラム助成

南関町立南関第三小学校 (熊本県)

理科学習における複数校兼務型専科指導の有効性と課題点への対応

南関町では子どもたちへの質の高い理科授業の提供と各校教員の負担軽減のため、町内4小学校を兼務する理科専科教員を配置している。ロイロノートやSKYMENUといった学習アプリで子どもたちから写真や記録を提出させ、教員は他校からチェックするほか、オンライン上の学習ログを他校でも活用することにより学習の拡がりを持たせた。学校間で学習内容を平等に提供できたほか、全国学力・学習状況調査では理科だけが全国を上回るなどの成果も得られた。全国的に教員不足が懸念される現状において、今後も複数校兼務による専科指導の有効性を検証していきたい。



個別助成

新潟県立村上中等教育学校 (新潟県)

村上の特産品 村上茶と鮭を題材とした科学的探究活動の実践

～特産品のお茶と鮭で研究スタート～

北限のお茶「村上茶」および村上市が世界初の自然ふ化増殖に成功した地である「鮭」は同市を代表する特産品である。その良さを全国に発信したいとの思いから、科学的な探求活動を開始した。鮭については、校内でふ化、放流、体色変化の実験などを実施、村上茶については美味しいお茶の淹れ方から温度の違いによる渋み成分の量の比較実験などをおこなった。大学など研究施設での実験の面白さや研究発表での意見交換の楽しさを研究を通して学んだほか、特産品の良さを再認識する契機となった。



香川県立多度津高等学校 (香川県)

事前授業を実施しての「ミニ水族館」観察による生物多様性学習

～「ミニ水族館」を見物の場から効果的な学習の場へ～

「水産科学部」では校舎内に大小90の水槽を設置し、100種類以上の水生生物を飼育管理している。瀬戸内海沿岸唯一の水産科を持つ高校の使命として、水産教育の魅力を発信していこうと、これらの水生生物を偶数月第2日曜日に「ミニ水族館」として一般公開している。近年はテーマ性を持った展示を心がけ、近隣の小学校や中学校を対象に観察前に生物多様性についての事前授業も実施している。今後はさらに、特別支援学校とも共同して、誰もが観察しやすいユニバーサルデザインへの改善を進める予定だ。



個別助成

弘前市立新和中学校 (青森県)

世界遺産「白神山地」からSDGsの意義を探る～ブナ原生林の価値とマタギの知恵を学習～

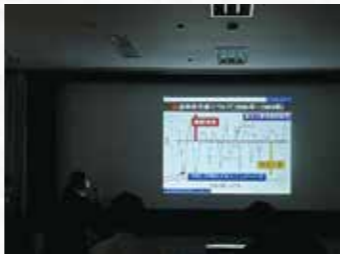
全世界的規模で進行している森林破壊は深刻だが、美しい景観や水資源に恵まれた本校の生徒にとってはそれをなかなか実感できない。そこで世界自然遺産「白神山地」の価値を再認識するため、貴重な動物、地域固有の植物分布を知り、東北などの山岳地方で狩猟を専門とするマタギの理知を学ぶことにした。環境再生や持続可能な社会作りに向けて、自分たちに何ができるのかを考える機会となり、「真の共生とは何か」について深く考察する機会となった。



鹿児島県立国分高等学校 (鹿児島県)

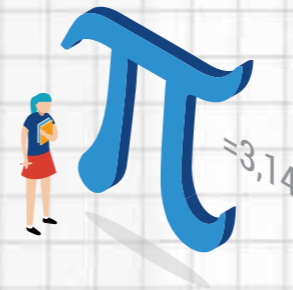
地球・火星・木星の気象現象等に関する研究の活性化～月食時の月の明るさとエアロゾルの関連性～

2021年と2022年にそれぞれ観測できる月食があることを知り調べを進めていくうちに、月食の時に月が赤く見えることに興味を持った。過去に観測された月食を調べると、火山が大噴火した年に近い月食ではいずれも暗い月が観測されていたことから、大気混濁係数が月食の明暗にすると予測し月食を観測し、見え方の違いを考察した。予測通りの観測結果にならないこともあるが、学会発表等での様々な助言を参考に、今後も新しく入手したエアロゾルのデータの分析と考察を進めていきたい。



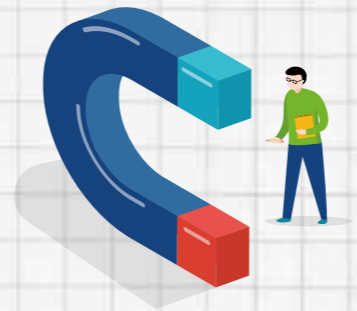
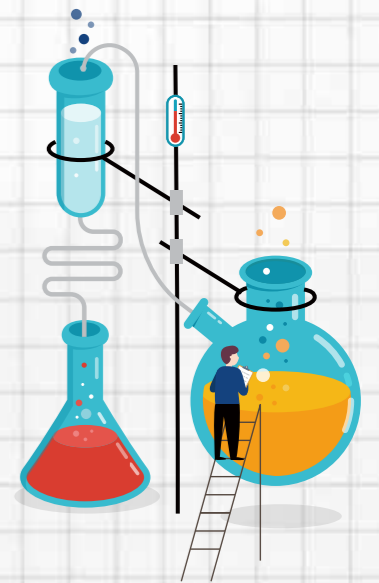
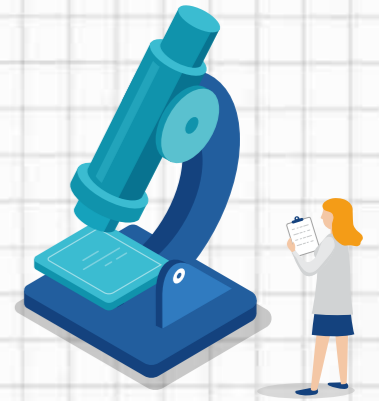
科学教育振興助成

対象 小学・中学・高校 教育機関



科学の学びを通じて
子どもたちの興味と体験の
橋渡しをする助成金のご紹介

未来を創る その感動が



令和6(2024)年度助成の 令和5(2023)年
募集期間 10.1日 - 11.30日



科学教育を通じてつくる 発展するチカラ。

中谷医工計測技術振興財団は、将来を担う子どもたちの論理的思考力や創造性を育み成長させることが、科学技術の発展はもとより我が国の発展に寄与するものと考え、小学校、中学校、高等学校における科学教育振興を目的とした取り組みに対して助成する事業を平成26年度より実施しています。
さらに、理科好きの小学生を増やすため、意欲的な小学校の先生方を支援する取り組みも行っています。
この助成が、科学教育発展にご尽力いただいている皆様の一助になればと考えています。



中谷医工計測技術振興財団とは

中谷財団は、シスメックス株式会社の創業者・中谷太郎が昭和59年に「中谷電子計測技術振興財団」として設立しました。その意思を継いだ子息の中谷正の遺贈を受け、平成24年に大きな事業が行える財団へと生まれ変わりました。同年には、公益財団法人に移行し現在の財団名となりました。
当財団は、医工計測技術の広範な発展を推進し、社会および国民生活の質の向上に寄与することを目指しています。医工計測技術分野における先導的技術開発の助成を中核として技術開発に顕著な業績をあげた研究者への表彰や技術交流への助成等の事業を行っています。
また、若手人材育成のため、科学教育振興をはじめ大学生の留学サポートや大学院生向け奨学金等の助成事業も行っています。



お問い合わせは、下記HPの「お問い合わせフォーム」よりお願いします

最新情報については、ホームページをご覧ください。
<https://www.nakatani-foundation.jp/>



詳しくは
中谷財団

プログラム助成

助成対象

広く科学教育を振興するため、小学校、中学校、高等学校等の複数校の児童、生徒が主体的に共同で行う2年間の活動。
※地域特性を活かした取り組みを重視します。

助成金額

最大100万円×2年間

応募資格

上記の活動の企画・運営を行う代表校。
※原則、大学や教育センターからの応募はできません。
※高等専門学校は、1~3年生が対象となります。
※2年間継続して活動いただける組織に限ります。

個別助成

助成対象

小学校、中学校、高等学校等における児童・生徒の科学に対する関心を高めようとする授業やクラブ活動等。
※地域特性を活かした取り組みを重視します。

助成金額

最大30万円×1年間

応募資格

上記の企画と実施に取り組む小学校、中学校、高等学校等。
※高等専門学校は、1~3年生が対象となります。

意欲的な小学校の先生方を支援するプログラム助成

助成対象

子どもたちの理科の力を向上させるための指導法の改善や学習法の開発などに取り組む意欲的な小学校の先生方、または先生方を支援する機関の3年間の活動。
※複数の学校が、研究機関(博物館、科学センター、大学等)や教育センター等と共同で行う活動。

助成金額

最大100万円×3年間

応募資格

上記の活動の企画・運営を行う代表校または、機関、コンソーシアムの代表。
※原則、地方自治体からの応募はできません。教育センターからの応募は可能です。
※先生方の自主的な研究会は、組織体として整備され、教育委員会が承認または認知した組織に限ります。
※3年間継続して活動いただける組織に限ります。
※複数の小学校の参画が必須です。

- ◎本助成対象は、学校、教育機関であり、先生個人を対象としたものではありません。
- ◎特別支援学校等も対象です。
- ◎個別助成、プログラム助成は児童・生徒が主体的に行う活動が対象です。

令和6(2024)年度助成の 令和5(2023)年
募集期間 **10.1** 日 - **11.30** 木 助成採否のご連絡は
3月上旬に致します

応募方法

当財団ホームページにて、募集要項を確認の上、ウェブシステムよりご応募ください。 ※募集期間前の入力はできません。
ご応募の前には、必ずHPのQ&Aをご覧ください。



過去の助成数

令和5(2023)年度	【プログラム】33件	【個別】64件	【小学校の先生支援プログラム】16件
令和4(2022)年度	【プログラム】33件	【個別】59件	【小学校の先生支援プログラム】14件
令和3(2021)年度	【プログラム】33件	【個別】60件	【小学校の先生支援プログラム】19件
令和2(2020)年度	【プログラム】31件	【個別】62件	【小学校の先生支援プログラム】16件

大学・高専を対象とした5年間の
次世代理系人材育成プログラム助成も募集しています。

詳しくはHPをご覧ください。